

接続詞 四段・未尊敬「す」用(補助)四段・已 完了「り」体 係助
また、**承ら**せ **給へ** **る**殿ばら**は**、

⑤話し手↓帝 四段・用 完了「たり」体
御けしき**変はり**て、**益なし**と **おぼしたる**に、

係助 副詞 係助 係助 格助
入道殿**は**、つゆさる御けしき**も**なくて、「私の

格助 係助 (補助)四段・未 打消意思「じ」終 格助 格助
従者**を**ば**具し**候**は** **じ**。この陣の吉上

サ変・用 ①入道殿↓帝 格助 格助 格助
まれ、滝口まれ、一人**を**『昭慶門**まで**送れ。』と

四段・命 格助 格助 係助 (補助)ラ変・未
仰せ言**給へ**。それ**より**内には一人入り**侍ら**

⑤入道殿↓帝 格助 四段・用(補助)四段・已 格助 格助
意思「む」終 四段・用(補助)四段・已 格助
む。』と**申し** **給へ** **ば**、「証なきこと。』と

格助 格助 格助 格助 格助 格助
下二・未 尊敬「うる」体 副詞 格助 格助
仰せ **うる**に、「げに。』とて、御手箱に**置か**

⑤話し手↓帝 格助 格助 格助 格助
尊敬「す」用(補助)四段・已 四段・用(補助)四段・用
せ **給へ** **る**小刀**まして**立ち **給ひ** **ぬ**。

(ふたごころ) 副詞 格助 格助 格助 格助
いま二所**も**、苦む苦むおのおのおは**ぞ**じぬ。

格助 格助 格助 格助 格助 格助
「子四つ。』と**奏し**て、かく**仰せ**られ**議する**ほど

格助 格助 係助 完了「ぬ」用 格助 格助
に、丑**にも**なり**に**けむ。「道隆**は**右衛門の陣

格助 下二・命 係助 格助 格助
より**出**でよ。道長**は**承明門**より**出**で**よ。』と、

格助 副詞 尊敬「す」用(補助)四段・已 副詞
それを**さへ**分**か**たせ **給へ** **ば**、**しか**

四段・已 完了「り」体 格助 副詞 格助
おは**しましあ**へ**る**に、中の関白殿、陣**まで**念**じ**

格助 格助 格助 格助 格助
て **おは**しま**したる**に、宴の松原の**ほど**に、そ

格助 格助 格助 格助 格助
の**もの**と**も**なき声**ども**の**聞こ**ゆるに、**ず**ちなく

格助 (補助)四段・終 格助 格助
て**帰**り **給**ふ。

また、天皇のご命令(勅命)をお受け申し上げなされた殿たちは、

お顔色が変わって、困ったことだと思いいになっておられるのに、

入道殿は、少しもそのような様子もなくて、「私の従者は連れていきますまい。この近衛府の陣の吉上

でも、滝口の武士でも、(誰か)一人に『昭慶門まで送れ。』と

ご命令ください。そこから中には(私)一人で入りますまい。』と申し上げなされると、(帝は)「それ

では、道長が行った(証拠がないことだ。』とおっしゃられるので、「なるほど(ごもつともでございませう。』と言って、(帝が)御手箱に置き

なされている小刀をお借りして立ちなされた。もうお二人(道隆・道兼)も、しづしづそれぞれお

出かけになった。「子四つ(午前0時半。』と役人が申し上げて(から、このようにおっしゃられて、相談しているう

ちに、丑の刻(午前1時〜3時)になってしまったのだらう。』道隆は右衛門の陣から出よ。道長は承明門から出よ。』と、

それ(出口)までお分けになられたので、その通りにお出かけになったが、中の関白殿(道隆)は、

右衛門の陣までは我慢していらっしやうたが、宴の松原のあたりで、

何とも得体のしれない声が聞こえるので、どうしようもなくて

お帰りになった。